

「赤水」の注目度向上

寄稿

長久保赤水顕彰会長

佐川 春久

度からは中学・高校の教科書にも赤水の功績や日本地図が掲載され、授業を行う学校の先生方や県外から顕彰会への問い合わせも増えた。

県十日町などからも出前講師の依頼があった。

赤水は伊能忠敬より42年も早く精密な日本地図を作った。2人が作った地図とその影響について、在京紙が昨年10月から今年3月まで23回にわたり連載した。

歴史上の人物を紹介するム

ただいている。来年の市制施行70周年を契機に長久保赤水を研究する専門家による学術的なシンポジウムを開催するのはどうだろうか。高萩から全国へ情報発信することで、地元への波及効果も期待できる。

も早く精密な日本地図を作った。2人が作った地図とその影響について、在京紙が昨年10月から今年3月まで23回にわたり連載した。

関係資料を所蔵する同市歴史民俗資料館の来館者は、県外が約1割を占めるまでに増加した。同市の友好都市、山形県新庄市や埼玉県飯能市の小中学生も元

今夏は、東京都品川区が主催する講演会の講師を務める機会を得た。高評価をいただいたが、赤水の名や功績を知る人はまだまだ少ないとも実感した。

中学・高校の教科書に掲載

江戸時代に活躍した現高萩市出身の地理学者、長久保赤水（1717～1801年）への注目度が一段と高まっている。2019年に都内で開催した内閣官房との共催事業「いつたい何者？江戸の地図男！長久保赤水展」が県外での情報発信の始まりとなり、翌20年の赤水資料の国の重要文化財指定につながった。21年

昨年4月には日本地図学会に長久保赤水図専門部会が発足。都内で学会例会が開催され、歴史地理学会でも赤水の研究論文が発表された。「赤水図」を活用した地理教育では、県内の中学・高校にとどまらず新潟

ツク本「面白すぎる人物日本史近世・近現代編」（中央公論新社）や雑誌「週刊文春」「サライ」などでも取り上げられた。高萩市は21年、赤水の生涯と功績を主題にした映像作品（53分）を制作し、動画投稿サイト

松岡藩の藩校「就将館」を訪れ、赤水をはじめ高萩ゆかりの偉人など歴史を学んでいく。高萩市は赤水資料の修復事業にも着手。現在、市歴史民俗資料館に「長久保赤水記念館」の併設も検討い

「赤水について知りたい」との要望があれば、可能な限りどこへでもとんで行きたいと思う。興味のある方は、ぜひ連絡をいただきたい。